

## 生理人類士 認定制度の御案内

日本生理人類学会は、人類の本質に基づく、健康で快適な環境の構築、評価、問題解決に携わり得る人材育成のため、西暦2000年に生理人類士認定制度を創設しました。これまで多くの方々が生理人類士資格を取得し各分野で活躍されています。当委員会は、これまでの取り組みを踏まえ、資格内容の一層の充実を目指しています。

本制度の資格には下記3種があります。

### (1) アメニティプランナー

(生理人類士1級)

### (2) アメニティコーディネーター

(生理人類士準1級)

### (3) アメニティスペシャリスト

(生理人類士2級)

(1)および(2)は日本生理人類学会員の内、前者は企業や大学等において豊富な実績のある方々を、後者は現在御活躍中の方々を対象としています。また(3)は本学会への所属は問わず、大学、短期大学等の学生あるいは社会人など、広く対象としています。

日本生理人類学会ホームページ「学術活動」を御覧下さい。

<http://jspa.net/>

## 巻頭言

### アメニティは「おまけ」？ 恒次祐子(東京大学)

アメニティ(amenity)は英単語ですが、その語源はラテン語の amoenus、これは pleasant(楽しい、快適な)とか lovely などの意味を持つ言葉だそうです。Amoenus は amó と関係があり、こちらは某サッカー選手で有名になった「アモール」でも分かるように love という意味ですので、愛があふれるような快適さというのが amenity という言葉が表すものなのではないでしょうか。ついでに日本ではアメニティグッズという和製英語で呼ばれるホテルの部屋の「おまけ」のようなもの(歯ブラシやひげそりなど)、あれらは amenity items、hotel amenities など、英語でも amenity という単語を使って呼び表されます。ホテルの部屋で快適に過ごすためのプラスアルファの物、という語感があると思います。

いまプラスアルファと書きましたが、アメニティという言葉には何となく「おまけ」感、つまり必須ではないけどあるとうれしいものというイメージがあるかもしれません。しかしよく考えてみると、アメニティを希求する心というはおそらく人間が普遍的に持つものではないかと思えます。もちろんその人が置かれた環境や状況によって、その心が隠れて見えなくなることは多々あるでしょう。でもアメニティを求める心が一切ないという人間は想像が付きません。つまりアメニティはおまけではなく、むしろ人間の本質に組み込まれた不可欠なものといえるのではないのでしょうか。

では人間はなぜどのようにしてアメニティを求めるようになったのか？アメニティが不可欠のだとしたら、その役割は何なのか？今のところ答えははっきりとは分かりませんが、生理人類学はその問題を解く有用な道具を与えてくれそうな気がします。生理人類学は人間が人間である所以を探る学問だからです。

## 2017年度 生理人類士優秀賞 受賞者

### 《準1級》 (5名)

小瀧奈美(西川産業)、那須ゆうみ(実践女子大学)、林田恵実(群馬大学)、平石由佳(福岡女学院大学)、武馬直美(武蔵野大学)

### 《2級》 (6名)

岩佐真奈(福岡女学院大学)、北村久美子(武蔵野大学)、庄子夏姫(東北文化学園大学)、藤代晶帆(武蔵野大学)、藤田彩花(実践女子大学)、松本美由貴(西川産業)

## 指定校認定申請要領

生理人類士指定校に認定されると、受験者には、受験料の割引をはじめ多くの特典が与えられます。

認定を申請される場合、下記①、②を封筒に入れ、「指定校認定申請書在中」と朱書し、本紙末尾に示す、日本生理人類学会資格事務局へ郵送して下さい。なお、デジタル化した文書の送信による申請も可とします。

不明な点があれば、事務局に照会して下さい。

### ①指定校認定申請書

#### (様式 B-1※)

代表者の署名と押印を必要とします。代表者には各教育機関の事情に応じて適切な人物を充てて下さい。なお、指定校責任者は代表者となることができます。指定校責任者の役割は、受験者の統括、試験問題の管理、試験の実施、試験監督等です(認定制度規程※参照)。

### ②資格要件に関わる開講科目

#### 一覧表(様式 B-2※)

生理人類士準1級および2級における受験資格要件に該当する、開講されている科目のリストを作成してください。単位数は各教育機関の学則に準じるものとします。なお、一人の指定校責任者の下、複数の学科あるいは専攻をまとめて申請することができます。その場合、学科あるいは専攻ごとに書類(様式 B-2※)を作成して下さい。

※学会ホームページにてダウンロード出来ます。

<http://jspa.net/>

## 寄稿

### 正解のない世の中に一つの判断基準を 元村祐貴(九州大学)

かつて、一動物種としてのヒトの目的は険しい自然の中を生き残り、子孫を後世に遺すことでした。近代になり、次にヒトが目指したのはもっと便利に、快適に生きることでした。しかしそれも、快適な人工環境が整い、飽食の時代と呼ばれる現代において、大きく変わりつつあるように思います。利便さの追求が頭打ちになり、技術の発展によって人体にかかるテクノストレス(人工照明による生体リズムの乱れ、労働の長時間化による睡眠不足・不眠など)が蔓延することにもなっています。正解が何なのか、あやふやな現代社会において生理人類学は「人類の長い歴史の中で培われた機能にマッチするか」という一つの判断基準を提示するものだと私は考えます。その真相は現在も多くの研究者が探求している最中ですが、生理人類士の取得によってその断片を味わうことが出来るかもしれません。これまでの現代社会では技術や産業が偏重され、それを利用するはずの“人間”が置いてけぼりになっていましたが、最近になってやっと、技術の発展自体を人間的基準に立脚して進め、人類の福祉、人間生活の一層の充実に役立てるという、「ヒューマンセントリック」や「技術の人間化」と呼ばれる考え方が重要視されるようになってきました。その実現のためにも、生理人類学を学ぶことは大いに役に立つことでしょう。

## 2017年度 資格認定者

### 《1級》(1名) 特別認定

綿貫茂喜(九州大学)

### 《準1級》(10名)

三木聖子・加藤 香・武馬直美・小池祐生(武蔵野大学)、小瀧奈美(西川産業)、那須ゆうみ(実践女子大学)、平石由佳(福岡女学院大学)、櫻井理瀬・林田恵実・福田友香(群馬大学)

### 《2級》(67名)

日暮裕子・濱田夏澄・砂原田江子・宮崎史枝・北村久美子・高市陽代・福山紗耶・古川達也・三上えみ子・館 智美・大塚久美子・成田竜宇・川辺聖子・堀内久美子・茂山千秋・潮田晃子・濱家翔子・立石琴子・内藤樹美夏・高槻美希・田村紗香・谷澤ほのか・樋口 僚・藤代晶帆・董 燕・松村優希・池田祐里子・大屋 華・馮 柳逸・渡邊 廉・芳賀圭介・羽生憲代・久我文乃・行方笑未・栃本香奈・海老澤芽衣・服部佑介・林 潤・大島利菜・下重奈々(武蔵野大学)、松本美由貴(西川産業)、小山恵理・越後果歩・長利のぞ美・齊藤雪奈・関口瑠加・芹澤まみか・永田緩奈・難波美妃・原田聖菜・藤田彩花(実践女子大学)、井上日夏里・宇治橋葵・浦山沙玖良・岩佐真奈(福岡女学院大学)、大崎虹花・今野亮太・櫻井航希・庄子夏姫・高橋龍成・中根悠貴・福岡 怜・山田世里那・岡部貴大・佐々木 俊・佐佐木 廉・武田周平(東北文化学園大学)

## 生理人類士 準1級

### 快適な睡眠環境の構築をめざす

小瀧奈美(西川産業株式会社 品質管理室)

私は、寝具メーカーの品質管理室で主にクレーン品の事故究明や販売前の試験に従事しております。寝具についての知識不足や経験不足、多種多様な寝具について知識を増やすことから始まり、長年、寝具を見続けてきた上司や先輩方から、これまで発生してきた課題や商品の変遷を教えていただきました。

それまでの私は、以前使用していた同じタイプの寝具を買い替えるだけでしたが、仕事を通じて、様々な寝具やいろいろな事例、また、商品試験をする中で、自分に合った寝具というものが徐々に分かってきました。それは主に自分にとっての使い易さや、お手入れの仕方でしたが、同時に、ヒトや睡眠についての知識不足を痛感していました。そんな折に、生理人類士の資格を紹介され、前回の2級に引き続き準1級の受験に挑戦することにしました。

これからは、商品や素材についての知識と、生理人類士の勉強を通して学んだ睡眠環境やヒトの生理機能という観点をプラスして従事して参りたいと思います。

### 私と生理人類学

那須ゆうみ(実践女子大学 生活科学部)

本学科の生理人類学に関係する科目には、生理学、生理人類学、生理人類学実験などがあります。生理学の講義では、多くの専門用語が次々に飛び出し、性や生殖にまつわる事柄が平然と語られ、しかも、ものすごいスピードで進行するので、友人は面喰っていました。しかし私の感覚にはピッタリであり、2年次に生理人類士2級を取得しました。

入学当初、私は建築系のゼミに進むつもりでしたが、いま生理人類学研究室に所属しています。そしてこの度、準1級に合格しました。試験に備えて2年連続して勉強したので、この学問領域について、何となく分るようになりました。日常生活に関わる事項が扱われているので興味が尽きません。今後研究に励み、1級取得を目指したいです。

### これからも興味を持ち続けたい

林田恵実(群馬大学 教育学部)

私は現在、教育学部に在籍し、家政学を専攻しています。生理人類学士の資格試験について知ったのは大学に入ってからです。被服学の講義で、ヒトの生理現象や快適な環境の条件について学ぶうちに、この学問に興味を持ちました。生理人類学のおもしろいところは、私たちの生活を構成する衣食住に深く結びついており、住まいやライフスタイルが違っていても、すべての生活者に関係する点だと思っています。

資格試験用のテキストはものすごく厚く、難しい専門用

語ばかりで、最初はどうなることかと思いましたが、特訓を通じて少しずつ勉強しながら、いずれも「快適性」と切り離せない重要な項目なのだと感じました。今後はアメニティコーディネーターの資格を有する者として、自分だけでなく周囲の人たちが、どうすればストレスの少ない環境で過ごせるのかということを考えていきたいです。

### 生理人類士準1級を受験して

平石由佳(福岡女学院大学 人間関係学部)

私が生理人類学について知ったのは大学に入ってからです。それまでは生理人類学がどのような分野で、何を学ぶかも知りませんでした。授業を受けていくにつれ、私たちが“現代”を生きていく上で、より良く生きるためにはどうすべきか、ということに興味を持ち、アメニティ検定を受験することを決めました。

受験勉強は覚える事が多く、大変ではありましたが、自分自身のことだけでなく、自分の環境についても知り、考える機会が多くありました。また、変わりゆく時代の中で人間がどのように適応していくのかについて知るの、とても面白い事でした。

生理人類学の授業や検定を通して、多くのことを学ぶ事ができました。自分の生活をより良くするものだけでなく、周囲の人々の生活をより良くする事ができる身近な学問でした。それらを今後の生活で生かせるように、学びを深めていきたいです。

### 生理人類士試験を通して

武馬直美(武蔵野大学 通信教育部)

合格できたこと、大変嬉しいです。きっかけは、生理人類士というものに対する興味と在学中の記念になればいいな…程度のものでした。

実際にテキストを手にしてみると、内容は幅広い分野に及んでおり、受験を目指した事を後悔したこともありましたが、しかし、一つ一つ学んでいくとどの内容もとても奥が深いと感じました。

試験の勉強を通して、我々人類はいつの時代も生きにくさに直面するたびに、与えられた知恵と工夫でその時々々の環境に適応し、生き抜いてきたことを知りました。その作業は繰り返し行われており、現在を生きる人類やその先の未来を生きる人類のために、今もなお続けられていることを知りました。その流れのなかで自分もその一員になれるといいなと思います。

## 生理人類士 2級

### 生理人類士2級資格試験を受験して

岩佐真奈(福岡女学院大学 人間関係学部)

私は大学に入学し、生理人類学という科目を見て、どのような講義なのだろうかと興味を持ち受講しました。また、この受講をきっかけに、生理人類士という資格がある

ことを知り、試験を受けてみたいと思うようになりました。講義の最初の頃は、それまでに聞いたことのある内容ではありませんでしたが、詳しくは知らないため一つ一つを理解していくということがとても大変でした。難しいと感じる部分も多かったですが、生理人類学の受講により、他の科目の理解がしやすいという部分もありました。特に感覚、環境という内容に関しては、心理学のなかでも私が興味を持っている部分でもあり、より深く理解することができたと思います。

生理人類学の講義、資格試験に向けての学びにより、私は人間の環境への適応について心理学の視点からだけでなく、生理人類学の視点からも考えることができるようになったと感じています。この学びを今後の生活に活かしていきたいです。

### アメニティの定義に惹かれ

北村久美子(武蔵野大学 通信教育部)

「環境のよさ人柄のよさに起因する全体的な住み心地のよさ」これはアメニティの定義だ。私は、この定義に心惹かれる。現代は通勤電車から美しい富士山が見えても皆が手元のスマホに目をやる時代だ。AI 搭載の電化製品が次々に開発され、私達の暮らしは便利になるばかりだが、その一方で老若男女が様々なストレスにさらされている時代でもある。便利な生活が心地よい暮らしと言えるのだろうか。

ヒトは多くの優れた生理機能と環境に適応する能力を有している。何もかもが便利になり過ぎるとこの優れた機能が退化してしまうのではないか。これからは、生理人類学で学んだ知識を活かし真の住み心地のよさを求めている。

### アメニティスペシャリストを受験して

庄子夏姫(東北文化学園大学 科学技術学部)

大学2年生になり「アメニティと環境」という科目を受講しました。この科目は「急速に変化し複雑化していく社会環境の中で人々が健康的で快適な生活が送れるようにするために、人々を取り巻く環境の諸要素について理解を深める」という事が目的だと記してありました。

現在、私が学んでいる建築環境学科は、「人々の環境に合わせて健康で快適に暮らせるような建物を建築する」が目的であり、アメニティと建築は大きく関わっていると感じて受験することにしました。

「アメニティと環境」の講義や「アメニティスペシャリスト」の受験を通して、生活環境などについての感覚や知識が理解できたと思います。この感覚や知識をこれから学んでいく様々な建築の場面に活かしたいと思います。

### 資格による気づき

藤代晶帆(武蔵野大学 人間科学部)

私は大学2年生のときの講義で、人間の脳の仕組みや睡眠のメカニズム、感覚器官など様々なことを学び、その分野に対する教養を深めたいと思い、生理人類士2級を受けることにしました。生理人類士2級の内容は、大学で受講した講義の内容も含まれていたもので、「この資格は大学で学んだことが生かせる」と思いました。

勉強を進めていくうちに、人間の体の特徴や人間の過ごしてきた環境なども学ぶことができ、「人間とはすごい生物である」と改めて知ることができました。資格試験を受けて、どのように自分たちが生きてきたのかについて、改めて考え直す良いきっかけになったのでこれからも生理人類学についてさらに詳しく学んで、自分の考えを広げていきたいと思っています。

### デザインに活かす

藤田彩花(実践女子大学 生活科学部)

ヒト、モノ、環境は多様であり、各人の感じ方も多様です。ところが「ヒトが良いと感じる環境とは何か」について、いとも簡単に結論が下されることが多く、しばしば疑問を覚えていました。そこで私は、ヒトの生理現象と快適性はどのように関連しているのか知ることが重要であるとみて、生理人類学に関する勉強を始めました。そしてこの度、生理人類士2級を得ることができました。

今では、人に自慢したくなる雑学のような領域まで知識が広がり、デザインに対する捉え方や考え方も広く深くなったように思われます。また、デザインの課題を与えられたとき、単にモノについて思案するのではなく、使い手であるヒトに関する知見に基づき、検討することが重要であると感じています。

### 寝具の品質管理の立場から

松本美由貴(西川産業株式会社 品質管理室)

私は現在、寝具メーカーでクレーム調査試験、市販前試験を主たる業務とする品質管理部門に属しています。お客様の不満や疑問への直接対応をしている他部門の社員が、お客様へ説明するための調査をしなければなりません。既定の試験を行った結果を数値で表し、適確で判りやすい説明を文書に作成する事を心掛けております。疑問や不満の中には、お客様の感性によるものもあり、説明に苦慮することもあるため、今回、生理人類士の資格試験に挑戦しました。

以前は、テレビなどで、人体の特集を他人事のように見ていたものですが、現在では、業務と関連づけ、問題意識を持つようになったと思っています。生理人類学の知識を深め、更に仕事に生かす所存であります。

#### 2018 年度資格認定試験

申込期間 2018 年 9 月 14 日(金)～10 月 5 日(金)

試験日 準 1 級・2 級: I 期 2018 年 12 月 1 日(土)

II 期 2018 年 12 月 8 日(土)

1 級: 相談の上決定

日本生理人類学会資格事務局

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5

アカデミーセンター

電話: 03-5389-6218、FAX: 03-3368-2822

メール: jspsa-post@bunken.co.jp

生理人類士認定制度 HP: <http://jspsa.net/certification>